

令和4年度事業計画書

Plus
Quality

—輝く未来をデザインする—



社会福祉法人 敬愛会

社会福祉法人 敬愛会
令和4年度事業計画骨子

1、新型コロナウイルス感染症への継続的な対応強化

刻々と変化する状況にスピーディかつタイムリーに対応し、平常時のみならず非常時に力を発揮できる、周囲から期待される法人づくり

2、組織内ガバナンスの見直し

- (1) キャリアパス規定を中心とした諸規定の横断的な見直し
- (2) 中堅級以上職員のさらなる能力値の底上げ
- (3) 非常時に「強み」を発揮できるレジリエンス（回復力、弾性、しなやかさ）能力が高い人材の育成
- (4) 事業評価委員会の立ち上げ
- (5) 倫理・懲罰委員会の設置
- (6) 財務規律の適正化・標準化

3、法人イメージのリブランディング

- (1) 従来イメージを精査し、新たにリブランドする
当会のタグライン（その企業のコンセプトや理念を表したり、その企業や製品、サービスがどんな価値を提供しているかを端的にあらわす言葉）を実現するという企業風土を醸成し、利用者の皆様や地域の方々から信頼される法人であり続ける

4、テクノロジーを活用した生産性向上に向けた取り組みの強化

- (1) 「コロナ禍」を追い風としたさらなる業務効率の改善
- (2) ヒトとモノの共存が可能となる土台作りの構築
- (3) 生産性の定義を明確にし、質・量の両面においてその効果を測定する

5、新規事業整備の円滑な実施

「輝く未来をデザインする」をコンセプトとする新たな挑戦

【 法人事業部 】

基本方針

コーポレートガバナンスの強化および内部統制をはかり、法人全体の効率化、効果的な経営体制充実を図ります。

1、経営組織のガバナンス強化プロジェクト

理事会及び評議員会運営

- (1) 理事会および評議員会、法人事業部が一体となり法人の経営力強化を図ります。
- (2) 社会情勢や情報を敏感に察知すること、外部の経営資源に対して的確な情報を入手し提供していきます。
- (3) 法人経営を行っていく上での活動の拠りどころとして法人事業部があるように積極的に信頼関係を構築していきます。

適正な経営状況の保持、健全な運営の確保

- (1) 内部監査を担う部門として、経営・リスク管理・コンプライアンスに関する管理体制の整備状況等、監査を通して確認を行います。
 - ・ 監査法人による会計監査への準備
 - ・ 監事監査の実施（5月）
 - ・ 法人内監査チーム（職員）による内部監査の実施（9月）
 - ・ 会計監査人としての公認会計士又は監査法人による外部監査導入に向けての準備

2、財務規律の徹底に向けた予算統制プロジェクト

各事業部への月次会計情報提供と状況の検証

- (1) 各施設の事業予算の執行状況を把握し、法人全体の財務管理を行っていきます。特に新規事業に関しては、慎重かつスピーディーに財務状況を把握し適宜報告していきます。
- (2) 職員が、法人の一員として法人全体及び事業所の予算、収支等を理解した上で事業に取り組めるよう、職員の意識や知識の向上に努めます。

3、生産性向上に向けた事務処理過程の再検証とシステム再構築プロジェクト

事務処理合理化に向けた現状把握と課題の抽出、ルールに基づく適正な事務処理の実施

- (1) 従来システムの拡張により事務処理の正確性、合理化を図ります。
 - ・ タッチオンタイムを活用した給与計算

- ・給与明細書の電子化

4、地域共生社会の実現プロジェクト

「社会福祉連携推進法人制度」の理解

令和4年度から施行される複数の社会福祉法人がグループ化した一般社団法人です。社会福祉法人等が社員となり、福祉サービス事業者間の連携・協働を図るための取組等を行う新たな法人制度で、社会福祉連携推進法人の活用により、福祉・介護人材の確保や、法人の経営基盤の強化、地域共生の取組の推進などが可能となります。

- ・研修会等参加による研鑽
- ・職員へ勉強会の実施

【 特養事業部 】

基本方針

ご入居者の自立支援と重度化防止に資する質の高いサービス向上を目的とし、テクノロジーを効果的に活用することで、エビデンスに基づいた科学的介護に取り組み、安全安心かつ快適な生活を過ごしていただくため設備環境を整え、介護現場の革新を目指していきます。

1、大規模修繕プロジェクト

特別養護老人ホーム敬愛荘は、創設 40 周年を迎え建物や空調設備等において頻りに設備等の修繕を行う状況となっております。専門業者に調査依頼をし、建物・設備のすべての部分において、改善すべき箇所を明確にし、優先順位を決定して、中長期的な展望のもと修繕計画を立案し実施してまいります。

・専門業者による調査の実施

4～5月に建築物調査・電気機械設備調査を実施し報告書作成します。

・修繕優先順位の明確化と業者選定の実施

外壁・屋上等の防水工事等施設と給排水設備、電気設備、ガス設備、冷暖房設備、消防用設備等付帯設備の改造部分の優先修繕箇所を明確にし、全体の優先順位を決定し計画を立て、業者を選定し実施してまいります。

2、リブランディングプロジェクト

設備機器ごとに独立していた機能をネットワーク化することにより、理想の I O S システムを構築し、他より優れた敬愛荘独自のテクノロジー活用によるプラットフォームを展開することで従来型施設のアナログイメージからの新ブランド展開に挑戦します。

・4～5月に一元管理への機器導入へ向けた委員会を立ち上げ、実施計画を策定し導入及び有効的活用を統一化するための職員研修をおこないます。

・ネットワーク化を展開し効果を検証のうえ、法人内事業所への普及につなげます。

(1) 施設内機器の「ネットワーク化」の取り組み

独立していた機能をネットワーク化することにより、業務効率化・非直接業務の省力化・多様な機能の活用を図り、介護サービスの質の向上をおこないます。

・介護記録ソフトをプラットフォームとし、ソフト連動・見守りセンサー・セキュリティシステム・制御機器のネットワーク展開の構築を実施します。

・連動型ナースコール導入により、コール時の記録業務 100%を削減します。

・コール時における都度巡視より、I O S 端末での状態確認へ移行することにより、巡

視業務20%の時間削減と同時コール時のリスク優先順位のほか、I O S端末による状態確認の二重事故防止体制への移行により、同時コール時の事故発生率の減少につなげます。

- ・内線/外線をI O S端末と連動させることにより、内線/外線対応までの時間40%の削減をします。

(2) タイムスタディによる見える化の取り組み

「業務時間測定ツール」を活用し、測定者によるバラつきを解消することで、正確に測定したエビデンスをもとに業務(直接業務)の標準時間を設定します。

- ・標準時間を設定することで、ムダな業務内容を見直し直接処遇の向上につなげます。
- ・各職員による12項目の業務にかかる時間を計測し、平均化する事で各業務の標準時間の設定(離臥床/排泄(オムツ)/排泄(トイレ)/食事/入浴/着脱/服薬/配膳/整容/体位変換/余暇活動/記録)と各業務の標準時間を基に個人差の原因を調査し、抽出された課題をピンポイントで教育します。
- ・新規I C T / I O T機器のB e f o r e / A f t e rを測定し効果の見える化をおこないます。

(3) 音声入力による効率的な記録の取り組み

機器及びツールを活用した介護記録業務と直接業務をマルチタスク化したシステム構築し立ち止まり記録をすることなく、常にご入居者様に寄り添った介護サービスを実践します。

- ・記録業務を音声入力に移行することにより、記録業務時間50%の削減を目指します。
- ・メモ等による記録、まとめて入力といった二重業務をなくします。
- ・音声入力によるリアルタイムの記録により記録漏れや曖昧をなくし、記録量20%の増加をします。

(4) 移動・移乗時の事故予防と適正化した機器利用への取り組み

移乗動作や車椅子ブレーキのかけ忘れやふとした立ち上がり時のブレーキ外れなどの転倒転落事故による骨折、打ち身、皮膚裂傷等の発生を減少させます。

- ・ご入居者の体型や身体状態に適した車椅子の整備・調整を実践します。
- ・車椅子の利用時による内出血/皮膚剥離の事故件数を50%減少します。
- ・車椅子の立上り時のブレーキかけ忘れによる転倒/転落事故を50%の減少します。

3、サービスの質の向上への取り組み

特養事業部は、ご入居者様の豊かな生活をおくっていただくため、確実に一步一步

基礎を固めながら前進する組織づくりと共に、チャレンジ精神を育成する取り組みを目指します。

- ・介護・看護・栄養・リハビリそれぞれ1年間の目標立案し、毎月進捗状況の確認をおこない達成度の評価を実施し、達成度80%以上を目指します。
- ・テクノロジーを活用したエビデンスをもとに非直接業務の標準化を適正化し、削減した時間をご入居者のリハビリ支援に向けることで「毎日の実践」をおこないます。
- ・全ご入居者様の介護支援計画へ「自己実現に向けた計画」を立案し、多職種で実践・評価をいたします。

4、新型コロナウイルス感染症への継続的な取り組み

変化する状況に対応し、施設内感染防止対策・衛生資材調達と施設内発生時におけるのクラスター発生予防対策をおこなうことで、有事の際に実力を発揮することで安心、安全を提供できる施設を目指し、Withコロナ・Afterコロナ時における対策を都度講じてまいります。

- ・施設内発生時において居室を素早く陰圧室に変換できるCDC（米国疾病予防管理センター）ガイドラインの要件を満たした感染拡大防止支援機器「陰圧装置」を設置し、早期に発生源の拡散を防止します。

【 地域密着事業部 】

在宅での生活が維持できるように地域との連携、地域の資源を最大限利用しながら安心して暮らしていけるような取り組みや、感染症や防災、災害対策も強化し事業継続に向けて対策をしていきます。認知症介護のエキスパートとして専門性を発揮し、ご利用者やご家族の支援をしていきます。

○グループホームさらい 認知症デイサービス

1、グループホームさらいPlus Qualityプロジェクト

職員の育成についてはコミュニケーションを通じ知識や意識を高め合い達成感や、やりがいを実感できるような職場作りを目指し入居者に対するケアの質の向上を上げていきます。

- ・力量評価表を元に弱い所を中心に年間研修計画を立て月1回研修の開催
- ・人事考課制度をもとに職員の教育

2、地域との関わりイメージアッププロジェクト

SDGs 17の目標の中で12番目のつくる責任つかう責任に着目し地産地消、地場産の食材を使い地元企業や直売所を通し食品の購入していきます。地域交流を図ることで知名度を上げていきます。

四季折々の野菜作りにもチャレンジしていきます。

- ・地元企業、直売所での食品の購入
- ・地域の方を交えた野菜作りの開催

3、テクノロジー活用した事故防止プロジェクト

入居者の状況や生活リズムを把握することでその方の生活に合わせたサポートを行い原因の分からない事故を減らして入居者の安全を確保していきます。

- ・ケアカルテと連動して、体動、離床 睡眠状態を見られるセンサーの購入の検討
- ・危険予知研修を年2回開催

認知症デイサービス

1、デイサービス安心利用プロジェクト

いつまでも住み慣れた地域で元気に暮らしていく為に、安心して利用頂けるような環境づくり、また来たいと思っただけのよう認知症の方に適した支援を行い心身機能の維持、回復を目指していきます。

- ・レクリエーションの充実（生活機能訓練、回想法、音楽活動、野菜作り）
- ・認知症サポーター養成講座の開催

○小規模多機能ホームなごみ

小規模多機能ホームなごみリブランディング

1、業務改善プロジェクト

業務の「ムリ、ムダ、ムラ」を洗い出し、業務効率化を進め限られた人材の中で生産性を高め職員の意欲向上、チャレンジする力を引き出し、コスト削減を行い収入アップにつなげていきます。

- ・労働力意欲の向上(風通しの良い職場環境の強化) アンケートの実施年1回
- ・業務マニュアルの見直し(効率的に動けるように業務の平準化を図る) 半年に1回
- ・物品管理(使用の推移の確認) 2か月に1回

2、多機能を生かした集客プロジェクト

利用者の方の体調やご家族の生活スタイルに合わせ柔軟なサービスの提供を行うことが出来る強みを生かし、登録人数26人以上を目指し収益の安定を図ります。

- ・医療機関(地域連携室)、居宅支援事業所、地域包括支援センターへの情報収集 月1回
- ・利用者、ご家族が安心して利用できるイメージアップ取り組み なごみ広報誌年2回

3、キャリアパスアッププロジェクト

キャリアパス制度に添ったプログラムを通して多様化に対応できるよう、専門的な研修の充実を図り、職員の意識、技術の向上を目指していきます。

- ・人事考課制度の導入による職員教育
- ・専門的研修

認知症サポーター養成講座の開催

緊急時対応の為救命救命eラーニング研修(救急手当)

危険予知研修(年2回)

【 未来デザイン事業部 】

基本方針

当会の取り組みや魅力を地域の方にも知っていただき利用に繋げることを目的とし、支援の見える化や将来を見据えた活動展開、当会にある資源の活用「保育」×「高齢」×「障害」を行うことで他との差別化を図ります。専門性に特化した職員研修をおこなうことにより柔軟な支援に対応致します。また、当部門は8割以上が女性在籍の職場になります。女性ならではの柔軟性を活かした職場づくりを目指し、多様化する生活環境の中でも女性活躍推進を取り組んでいきます。

1. 未来デザイン事業部

Plus Qualityプロジェクト～職員レベルアップ編～

学びやすい環境づくりや統一した評価システム整備をおこなうことで職員の意欲の向上や次世代リーダーの育成につなげます。また、計画的な採用活動をおこなうことで安定した職員体制づくりを推進します。

- ・キャリアパス制度の定期的な見直し（年2回）
- ・人事考課制度による統一した評価（年4回）
- ・中堅職員中心による地域イベントの企画・実施（年2回）
- ・オンラインシステムを活用した求職者見学会の実施（年2回）

2. 未来のK a z e 保育園

(1) 未来のK a z e 保育園ってこんなところ！遊びに来ませんか？プロジェクト

当園を魅力的に思い、利用するメリットに気づいてもらうため、保育の見える化を行います。インターネット等を活用することにより、若い世代の保護者様や地域の方へも興味を持ってもらえるよう積極的に地域へ発信を行っていき、入園児5名増を目指します。

- ・保育園見学ツアーの実施（年5回）
- ・未就園児教室の実施（年5回）
- ・インスタ活用の支援の見える化

3. 空と虹のな一さりい・アフタースクール

(1) 一人ひとりが輝くプロジェクト～利用者編～

スタートラインに立つ一人ひとりの可能性を次のステップに繋がられるよう個々の特性に応じた支援を行います。学習面に特化せず、社会性を身に着ける為に法人における様々な専門職に触れる機会を提供し、生活能力の向上を目指したプログラムを構築してまいります。

・職場体験チャレンジ～JOYS介護職員・bistroホールスタッフ～（全員1回以上体験）

・法人内施設見学～いろいろな仕事場へ行ってみよう！～

（2）一人ひとりが輝くプロジェクト～職員編～

小規模の事業所だからこそ、個々のスキルが問われる場面があります。そうした環境の中で、職員の能力を最大限に引きだせる環境づくりを目指します。各種講習や研修等の実施によるキャリアアップ支援を図り、一人ひとりがもったスキルをチームとしての団結力へ繋げ円滑でスピードある生産性向上を行って参ります。

- ・外部講師による専門研修の実施
- ・担当業務ごとのエキスパート育成、フローチャート作成
- ・プレストミーティングの導入

4. 市貝町新規事業スタートダッシュプロジェクト

令和6年度開所予定の市貝町新規事業オープンに向けスムーズなスタートが切れるよう、補助金の活用や事前準備にかかる業務の連携強化に努めます。

- ・みらいの福祉施設建築プロジェクトへの申請
- ・市貝町地域住民へ向けた説明会の実施

5. みんなでつくる魅力ある法人づくりプロジェクト～委員会活動編～

法人の魅力発信・発掘を目的とした職員参加型チャレンジプロジェクトです。一から関わることで、業務だけでは得る事のできない経験を積める場所を提供し、発想力・提案力のある職員育成へ繋げ、法人全体のさらなる飛躍を目指します。

- ・目標を明確にした委員会活動
- ・評価委員会の実施（年1回）
- ・活動報告（年1回、納会にて）

【 地域共生創造事業部 】

基本方針

「高齢」と「障がい」という2つの分野の利用者が住み慣れた地域で、暮らし続けられる地域共生社会の構築を目指して参ります。新しい生活様式を基に「withコロナ」に対応した体制を継続し、各事業所においてチームとしての総合力アップと他にない特色を生かした差別化を行うことで、事業所のリブランディングを進めて参ります。

1、 変わらなきゃ！ Plus Quality プロジェクト

(1) 敬愛荘デイサービス

受動的プログラムから能動的プログラムへの転換を行い、利用者ニーズに合わせた小グループ制でのレクリエーションを実施して参ります。また、車両内外の清掃を徹底して快適に乗車できるよう努めると共に、利用者の心身状態及び地理的状况等を考慮した車両や送迎ルートを設定する事で無理のない送迎サービスを行いデイサービスのイメージチェンジを図ります。

- ・受動的プログラムから能動的プログラムへと転換し稼働率10%向上
- ・送迎に関する業務の見直しで送迎時の事故件数3件以下

(2) 敬愛荘ショートステイ

テクノロジーを活用して事故件数の減少、危険予測能力の向上とコミュニケーション能力を含む接遇マナーの向上を目標として、利用者がショートステイを生活の一部と思える事業所を目指します。また、特養事業部と空床状況を密に連携して安定したベッドコントロールを行い稼働率向上に繋げて参ります。

- ・ナースコール (MOT/POX)、ネットワークカメラの導入・活用にて事故件数5件以下
- ・適切なベッドコントロールで稼働率90%以上

(3) 敬愛荘ケアプランセンター

特定事業所加算 (Ⅲ) の要件を維持し、在宅生活に関わる様々な相談に対して満足のいく相談対応や感染症リスクを軽減するサービスの組み合わせを提案できるケアプラン作成を行います。また、法人内・外の事例検討会を通じて地域の様々な事業所との連携強化とケアマネジャーの資質向上を図ります

- ・各種加算の確実な算定
- ・目標担当利用者数 (介護95名、予防50名)

(4) ケアプランセンターcraft plan もてぎ

地域住民や関係機関、包括支援センター等との連携強化、積極的な学びの機会を持ちケアマネジャーとしての資質向上を図ることで信頼関係の構築と迅速な対応に努め、茂木町及び芳賀地区において当会の存在感を発揮させて参ります。

- ・主任ケアマネジャーの資格取得
- ・目標担当利用者数（介護35名、予防20名）

(5) JOYSフィットネスクラブ

「Let's Go JOYS!」をスローガンとし、歩行機能の評価を行い、目標を持った利用ができるサービスを提供します。また、重点目標として「要介護者も残存機能の維持・向上ができる」を地域のアクティブエイジングに向けて積極的にアピールし利用者獲得に繋げ、チームで一丸となり早期の経営安定化を図ります。

- ・「キューズタグ」を活用した3ヶ月に1度の歩行評価
- ・イベント開催による知名度向上
- ・南那須地区の要介護利用者12名以上獲得

(6) bistro perle de beauté

利用者一人ひとりの「自己実現」をサポートできる段階を踏んだ支援を目標として、個々が抱える問題を的確に見える化するために評価表を導入し、客観的に作業評価を行って参ります。また、新たなサービスを展開することより作業内容の充実を図り利用者の就労意欲の向上を目指して参ります。

- ・評価表導入による個別評価にて最低賃金の減額特例制度の活用
- ・那須烏山市配食サービス事業受託
- ・新メニューの提供、新イベントの開催

(7) 全事業所共通

- ・5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動、3M(ムリ・ムダ・ムラ)のゼロ活動
- ・コストを意識することで支出10%削減

2 さらなる能力値向上を目指す人財強化プロジェクト

キャリアパス制度の運用に併せて、各種研修にて個々のスキルアップ、モチベーションアップと帰属意識の向上を図ります。人事考課制度を活用して自分の足りない部分を努力で補う習慣を身に着け、結果が出るまで挑戦し続けられる職員育成を行います。

- ・事業部、事業所内での研修の拡充
- ・帰属意識の向上で離職率0%

【 地域包括支援センター からすやま 】

基本方針

高齢者の尊厳保持と自立生活の支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう包括的な支援及びサービス提供と体制の構築を行ってまいります。

1、地域共生社会実現のための構築に向けた取り組み

- (1) 相談体制の強化と利便性の向上を図るために、住民の相談には懇切丁寧にワンストップで対応致します。
- (2) 関係機関のネットワークを活かし継続的、専門的な総合相談を行います。
- (3) 自助・共助・公助のバランスに留意しながら支援を行い、居場所と相互共助の場を構築していきます。

2、地域社会と連携及び専門職との連携

- (1) 住民や高齢者が集う場に参加し地域の課題を共有しながら、制度を超えた横断的、多面的なコミュニティづくりに協力していきます。
- (2) 在宅医療と介護が有機的に連携し一体的に提供できるよう構築に努めてまいります。

3、自立に向けた介護予防施策に対する推進

- (1) 自立支援型地域ケア個別会議を開催し、高齢者の自立支援に資するケアマネジメントに向けた支援について理学療法士、作業療法士、管理栄養士、薬剤師、生活支援コーディネーター、各サービス事業所等多職種で検討し、地域課題解決のための地域ネットワーク構築を目指します。
- (2) 認知症高齢者の増加に伴い、早期発見早期対応に向け各関係機関と連携を図り治療へとつなげます。
- (3) 独居高齢者、高齢者世帯の方々の自立支援において、指定介護予防サービス事業所の活用に加え、住民主体の通いの場の推進を行いながら社会参加を図ります。

4、災害や感染症対策に係る体制整備の協力

- (1) 市内において大規模地震、風水害その他の災害発生した場合、民生委員不在地域の避難行動要支援者の避難の協力を尽力を注ぎます。
- (2) 地域情勢の把握を行いながら、感染症蔓延のための高齢者引きこもりによる残存機能低下を予防するために、日頃から介護事業所と連携し情報を収集しながら対応していきます。